

JACET-Kansai Newsletter

No.17 2002年 10月 21日発行

支部長：岡田 伸夫

JACET-Kansai 事務局：〒631-8501 奈良市帝塚山 7-1-1 帝塚山大学人文科学部 梅咲敦子研究室内

Tel/ Fax: 0724-48-8558 E-mail: ufatsuko@hcn.zaq.ne.jp URL: <http://www.ryukoku.seikyoku.ne.jp/home/87858/>

「戦略構想」への対応について

岡田伸夫

本年7月12日、文部科学省は『『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想の策定について』（以下「戦略構想」）を発表しました。「戦略構想」には英語教育を改革するための新しい構想が具体的に述べられています。たとえば、中・高校卒業段階での英語力の達成目標を明示しました。具体的には、中学校卒業段階で英検3級程度を、高校卒業段階で英検準2級～2級程度をそれぞれ目標としています。また、英語教員が備えておくべき英語力として英検準1級、TOEFL 550点、TOEIC 730点程度という目標値を設定しました。さらに、平成15年度から5カ年計画で全英語教員6万人に対し、集中研修を行うとしています。外国人教員の活用では、中・高校の英語授業に週1回程度のALTの参加を保証し、人数も現在の8,400人から11,500人を確保するとしています。小学校段階での英語についても、次期学習指導要領改訂の議論の中で、英語を教科として導入することを検討するとしています。さらに、高校生の海外留学の促進や大学入試センター試験でのリスニングテスト導入などの施策も示されました。文科省は、「戦略構想」に基づき、今後、直ちに実施可能な施策は実施に移し、予算の必要な施策は平成15年度概算要求を行うとしています。

JACETは大学英語教育にかかわる実績ある学会として「戦略構想」について鋭意検討し、本年12月に文科省に対して具体策を提言することになりました。その中で、関西支部は「英語力プロジェクト」というプロジェクトを組織し、「英語教員、大学生、大学院生、企業人が備えるべき指標に関する裏づけ研究」という課題について検討することになりました。

全国大会終了後、広く情報収集にあたり、どのような体制で動くべきかに関して、運営委員会の先生方、研究企画委員会委員長の高橋先生、幹事の先生方と相談を重ねてきましたが、最終的に次の体制を立ち上げました。

- (1)英語教員指標部会（部会長：竹内理先生）
- (2)大学生指標部会（部会長：石川保茂先生）
- (3)大学院生指標部会（部会長：藤林富郎先生）
- (4)企業人指標部会（部会長：吉田信介先生）
- (5)世話役：相川真佐夫先生

4部会は今、10月中に文書をまとめるために時間と戦いながら作業をしています。支部の先生方にアンケートなどいろいろご協力をお願いしていますが、ご協力、どうぞよろしくお願いします。

英語力プロジェクトは10月中に文書をまとめたら終わり、とは考えていません。英語が使える日本人を育成することを目標とし、時間と労力を惜しまずに活動していただいているプロジェクトです。研究をさらに進めていただくことを願っています。近い目標としては、来年度の全国大会でその成果を中間発表していただくことを考えています。

なお、英語力プロジェクトへの参加や情報提供等につきましては、直接、各部会長宛てに、あるいは相川先生宛てにお願いします。

「英語力プロジェクト」の進捗状況について

相川真佐夫

岡田支部長のご報告にありますように、現在、関西支部では4部会を立ちあげ、作業に取り掛かっております。このニューズレターの一部をお借り致しまして、その進捗状況を簡単に報告させていただきます。

(1)英語教員指標部会

中高教員に関しては、教員採用試験のデータを、公立学校（都道府県ならびに政令指定都市）と私立学校に分けて収集中です。すでにまとまったデータから、公立学校では一定の基準が出来つつあることが判りました。また、少数ですが、教員への意見聴取をおこなっており、そこより指標が勤務評定に使われることへの恐れが教員間で広がっていることもわかりました。この点は、不安解消の所作が必要かと思われれます。私立学校の場合は、統一の基準はな

いが、公立よりも先行している学校も散見されます。大学教員に関しては、現在、JACET 関西支部の運営委員会を中心に情報提供を依頼中ですが、業績中心の採用であることが、収集済みのデータからうかがい知れます。ただし、業績主義の中でも、採用に際して英語面接などを行う動きが広がっており、少数ながら、教員採用に TOEIC などの指標を利用している大学も現れていることがわかりました。

私立中学・高校での教員採用方法について、もう少しデータが必要と思われる。また、中高の現場の先生方のご意見が貴重ですので、よろしければご意見をお寄せ下さい。

部会長：竹内理先生（関西大学）

takeuchi@ipcku.kansai-u.ac.jp

部会員：中田賀之先生（兵庫教育大学）

若本夏美先生（同志社女子大学）

池田真生子先生（摂南大学等（非））

(2)大学生指標部会

現在、TOEIC、TOEIC 等の資格試験の活用法について、さまざまな大学での取り組みについて情報を収集しております。会員の先生方の大学での事例などを提供して下さると助かりますので、よろしければ情報ををお寄せ下さい。

部会長：石川保茂先生（京都外国語大学）

y_ishikawa@kufs.ac.jp

部会員：吉田晴世先生（摂南大学）

倉田 誠先生（京都外国語大学）

吉田真美先生（京都外国語大学）

(3)大学院生指標部会

大学院生が持つべき英語力の指標について、国内国外の既存のデータ（入学要件としての TOEFL スコア等）を集めると共に、大学院の先生方に院生に持って欲しい英語力についてメールでアンケートにお答えいただいています。これらの結果を、「大学生指標部会」とすり合わせたのち、10月26日頃には、ファーストドラフトにまとめたいと考えています。

会員のご存知の大学院のカリキュラムに、どの程度「大学院生の英語力を伸ばすことを主目的とする授業」が組み込まれているか、できればその指導内

容、時間等もご教示いただくと大変参考になります。もちろん、大学院の先生方、院生の方たちに直接お知り合いがおられる場合は、「大学院生がもつべき英語力」について、直に聴取しお知らせいただくと、非常にありがたいです。

基本的には、大学院での研究に役立ち（文系・理系・芸術系等でかなりのレベル差があることも配慮しつつ）、国際学会や、学会誌等で英語による発表がタイムラグなしでできること、また、国外の研究者らと人間関係も英語でつくれること、（いずれの場合もユーモアもまじえて、コミュニケーションできる英語力）を、考えています。この他、お気づきの点はなんでもご助言ください。

部会長：藤林富郎先生（金蘭短大）

t-fujibayashi@kinran.ac.jp

部会員：杉森直樹先生（大阪電気通信大学）

野口ジュディー先生（武庫川女子大学）

堀井祐介先生（大阪大学）

藤田糸子先生（京都大学）

(4)企業人指標部会

現在、企業人の持つべき英語力の指標について情報を収集しているところです。具体的な作業としては、JACET 関西支部の会員を通じて、各大学の就職部または（ならびに）求人企業情報を管理されている部門にアンケート調査を行い、企業における従業員の英語力の指標を明かにしようと試みています。

部会長：吉田信介先生（摂南大学）

RXV06557@nifty.ne.jp

部会員：小山敏子先生（大谷女子短期大学）

小西千鶴子先生（立命館大学（非））

倉本充子先生（広島国際大学）

以上、関西 JACET が取り組む「英語力プロジェクト」4部会の現在までの進捗状況を報告させていただきました。これらの作業については、どの部会にも会員の先生方のご理解とご協力が必要になります。どうか、有益な情報がございましたら、各部会の部会長、または、4部会世話役の相川真佐夫までご連絡下さい。宜しくお願い致します。

世話役：相川真佐夫 aikawa@nnc.or.jp

秋季大会報告

2002 年度関西支部大会は、10 月 13 日(日)に、神戸市大学共同利用施設「ユニティ」で開催され、89 名の参加者がありました。高校・大学における示唆に富む実践報告と言語面・言語政策面の新たな知識の詰まった研究発表計 4 件につづき、シンポジウムでは、各講師の先生方による IT 時代の英語教育の本質を教えられる思いのご講演の後、熱心な議論が展開されました。さまざまな形でご尽力くださいました方々、特に開催校、神戸市外国語大学の菅山先生、村田先生および同大学でお手伝いをいただいた学生の皆様に感謝いたします。

JACET 関西支部講演会・JACET 関西支部談話会

前号で予告の講演会・談話会が別紙のとおり開催されます。ぜひご覧頂き奮ってご参加ください。

忘年会へのお誘い

例年どおり、談話会終了後関西支部忘年会を開催いたします。会場のレストランは、11 月リニューアルオープンの大阪市中央公会堂にあります。お忙しいひととき、大正時代の貴重な建物の中で、タイムスリップして、日ごろの苦労を忘れてみるのはいかがでしょうか。関西支部会員の皆様お誘いあわせのうえご参加ください。

日時： 12 月 7 日 17 時 15 分から 19 時 15 分まで

場所： 大阪市中央公会堂レストラン

会費： 5,000 円

尚、準備の都合上、ご参加の場合、11 月末までに関西支部事務局までメール、FAX またはお葉書にてお申込ください。

Professor Henry Widdowson 講演会

標記の大阪開催講演会を JACET 関西支部が The British Council Osaka, Oxford University Press とともに共催いたしますのでご案内いたします。ご参加の方は、下記要領にて直接申込先にご連絡ください。

Title of the talk:

Text and Pretext in Language Use and Learning

Date: Tuesday, November 26

Time: 18:30-20:30 (including wine and cheese reception) Doors open at 18:00.

Place: The British Council Osaka

Dojima Avanza 4F

Tel: 06 6342 5301 (Inquiries regarding venue only)

Address and maps to The British Council offices:

http://www.uknow.or.jp/bc/jpn/our_centres/index.htm
(Japanese)

http://www.uknow.or.jp/bc/eng/our_centres/index.htm
(English)

Who to contact for more information:

Ms. Kaoru Sekine,

ELT Promotions Controller,

OXFORD UNIVERSITY PRESS

Edomizaka Mori Bldg. 6F,

4-1-40 Toranomom, Minato-ku, Tokyo 105-8529

Tel: 03 3459 6481 Fax: 03 3459 0390

e-mail: sekine@oupjapan.co.jp

Attendance fee and seat reservation:

The event is free. Please register and reserve a seat by sending the following information to Kaoru Sekine <sekine@oupjapan.co.jp>:

Name

School Name

E-mail Address

Phone Number

Event Venue (i.e. Fukuoka, Kobe, Osaka, Nagoya, Tokyo)

Abstract:

This talk is about how written texts are processed and what that indicates about their use in the teaching of English. Although there is plenty of evidence that language users interpret what they read in diverse ways, and make their own meaning by sampling the language selectively, the idea appears to persist that there is a real or complete meaning contained in text which can be discovered by focussing attention on its linguistic features. I suggest that meaning does not reside encoded in text but is always derived from it, and that what is derived will always be partial and to a considerable extent depend on particular pretextual conditions: what purposes and assumptions people bring to their reading and how they position themselves as readers. There are implications here for what written texts should be presented in class, on

what criteria they should be selected, or specially designed, and what kind of activities they should be associated with to make them effective for learning.

This presentation welcomes audience participation and will offer an occasion for further discussion on key issues in the field of English language teaching.

Professor Widdowson's Bio-Data

Henry Widdowson is Professor of English Linguistics at the Institut für Anglistik und Amerikanistik at the University of Vienna. His publications include Practical Stylistics, Aspects of Language Teaching and Teaching Language as Communication, all published by Oxford University Press. Professor Widdowson sits on the Board of Management of the ELT Journal and, among other projects, he is the general editor of the Oxford Introductions to Language Study, designed to provide brief, clear introductions to the main disciplinary areas of language study, such as Second Language Acquisition, Linguistics, Psycholinguistics, Language Testing, and Language and Culture.

ICSWC2

The 2nd International Conference on Speech, Writing and Context

Exploring Interdisciplinary Perspectives

標記の国際会議に JACET が後援いたしますので、関西支部からのご案内いたします。詳細は下記ホームページをご覧ください。連絡先にお尋ねください。大会テーマ：1998年7月ノッティンガム大学で行われた第一回大会の理念を受け継ぎ、言語コミュニケーションの2つの使用形態である話し言葉と書き言葉の特徴と用法をコンテキストとの関連で検証することをテーマとし、第2回大会は特に、談話分析、認知言語学、情報工学など様々な学問領域からの知見を取り入れた学際的研究の交流、発展の場となることを目的とする。研究発表は、言語学、文学と言語教育、マルチメディアと情報工学の3つの柱に沿って行われる。

日時：2003年8月6-8日

会場：関西外国語大学 中宮キャンパス

研究発表応募締切：2003年1月31日

参加申込：2003年4月30日(大会プログラム掲載)

参加費：25,000円(4月30日まで)以後増額

連絡先：〒573-1001 枚方市中宮東之町16-1 関西外国語大学 村上裕美研究室 ICSWC2事務局

TEL: 072-805-2801 FAX: 072-805-2866

E-mail: hiromim@kansai.ac.jp

http://www.kansai.ac.jp/teachers/toyota/ICSWC2.htm

支部事務局からのお願い

2003年度 JACET 関西支部春季大会(平安女学院大学:6月7日 土曜日)でのワークショップ・研究発表等を募集しております。締め切りは2003年2月20日です。発表をご希望の会員の方は、次の要領で関西支部事務局までご応募ください。会員の皆様の積極的なご応募をお待ちしております。

1. 発表は英語教育および関連分野に関する未発表のものに限ります。
2. 研究発表・実践報告は、発表が20分、質疑応答が10分、合計30分の形式になります。
3. 応募者は次の書類 A), B), C) を「研究発表申込在中」と朱書きした封筒にて、事務局まで送付してください。

A) 発表形式

ワークショップ、研究発表、実践報告の別をご記入ください。

B) 発表要旨(目的、背景、仮説、方法、結論等)

日本語の場合は800字(A4用紙ワープロ打ち)程度、英語はダブルスペースでA4用紙1枚程度(ワープロまたはタイプ打ち)で、無記名とする。

C) 発表者情報

a)発表題目、b)氏名(ふりがな)、c)所属、d)住所、e)TEL、f)FAX、g)E-mail、h)発表に使用する言語、i)使用機器をそれぞれ明記したもの。

4. 選考は選考委員会にておこないます。
5. 選考結果は、締切り後1ヶ月程度でE-mailあるいは封書にて通知します。
6. 送付先：〒631-8501 奈良市帝塚山7-1-1 帝塚山大学人文科学部 梅咲敦子研究室 大学英語教育学会 関西支部事務局 (受取り確認のお知らせを一両日中にe-mailまたは葉書にてお送りいたしますので、万が一、連絡がない場合はご一

報くださいますようお願いいたします。)

『JACET 関西紀要』原稿募集中

『JACET 関西紀要』の原稿を募集しています。
締め切りは2003年1月17日(金曜日)です。
応募要領は、ニュースレターNo.15 に同封の投稿規
程または JACET 関西支部ホームページをご覧ください。紀要に関するお問い合わせは、紀要編集委員
長、瀬川俊一先生 (〒524-8511 滋賀県守山市三宅町
250 番地 平安女学院大学 現代文化学部：
segawa@my.heian.ac.jp) をお願いいたします。

JACET 賞

門田修平先生(関西学院大学)が、ご著書『英語
の書きことばと話しことばはいかに関係しているか
第二言語理解の認知メカニズム』(くろしお出
版)で JACET 賞を受賞されました。